

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	IT業界からの離職者をITストラジストとして再生する研修プログラムの開発		
法人名	学校法人 コア学園		
学校名	秋田経理情報専門学校		
代表者	理事長 児玉 隆次	担当者 連絡先	事務長 佐久美 和之 TEL 018-865-0188

1. 事業の概要

本事業は、IT業界において、システムアーキテクト、ネットワーク、データベース、情報セキュリティなどのテクノロジー系スペシャリストとして就業していたが、自信を喪失してドロップアウトしたIT技術者を対象とした。それらの技術者がそれまでに蓄積したキャリアをベースとし、テクノロジー系からストラテジ系・マネジメント系へ誘導することによって、ITストラテジストとして再チャレンジする方向性を身に付けさせる学習プログラムを開発した。

まず、東北圏内を中心とした企業に対して、ITストラテジストの実務ニーズを明らかにするためのアンケートと、新試験制度の内容を調査した。

次に、これら調査結果を踏まえ、120時間の「ITストラテジストとしての再チャレンジを実現する研修プログラム」を構築し、それに基づいたコア教材として、ストラテジ系・マネジメント系の知識を身につけるためのCBT (Computer Based Testing) 学習システムと、ITストラテジストとしてのスキルを高めるためのケーススタディを開発した。

最後に、CBT学習システムやケーススタディを教材として使用する実証講座を実施した結果、開発した「ITストラテジストとしての再チャレンジを実現する学習プログラム」及びCBT学習システム、ケーススタディの有効性を検証できた。

2. 事業の評価に関する項目

① 目的・重点事項の達成状況

本事業の意義は、離職したIT技術者に対して、それまで蓄積したキャリアをベースに、テクノロジー系からストラテジ系・マネジメント系へ誘導することで、ITストラテジストとしての再チャレンジを実現する研修プログラムを開発し、その有効性を検証することにあった。

結果として、ITストラテジストとして必要なストラテジ系・マネジメント系の知識を身につけるための学習プログラムとCBT学習システム、ケーススタディを開発し、その有効性を確かめられたことは誠に意義深いことであり、本事業の趣旨に沿った十分な成果をあげることができたと確信している。

② 事業により得られた成果

構築した120時間の「ITストラテジストとしての再チャレンジを実現する学習プログラム」の概要は次のようなものである。

- 第Ⅰ期 マネジメント系基礎講座 計15h
 - 自習学習 教本(市販テキスト)を使用した自習 9h
 - CBTトレーニング 100問CBT(実施、解説) 6h
- 第Ⅱ期 ストラテジ系基礎講座 計15h
 - 自習学習 教本(市販テキスト)を使用した自習 9h
 - CBTトレーニング 100問CBT(実施、解説) 6h

■第Ⅲ期 プロジェクトマネジメント実践講座 計48h

- 講座予習(PMBOK基礎) 自習学習+質疑応答(SNS) 12h
- プロジェクトマネジメント実践講座(集合学習 PBL演習) 7.5h×4日=30h
- 講座復習、レポート作成・提出 自習学習+添削(SNS) 6h

■第Ⅳ期 ITストラテジスト講座 計42h

- ケーススタディ1、2の集合学習 6h
- ケーススタディ1(MOT) 集合学習に加えてグループ討議(SNS) 10h
- ケーススタディ2(問題解決) 集合学習に加えてグループ討議(SNS) 10h
- ケーススタディ3の集合学習 集合学習 6h
- ケーススタディ3(組込み) グループ討議(SNS) 10h

③今後の活用

離職したIT技術者を対象とした「ITストラテジストとしての再チャレンジを実現する学習プログラム」は、今後も定期的に実施し、離職者の就職を支援、または、離職者、就業者を問わずスキルアップに貢献していきたい。

④次年度以降における課題・展開

第Ⅰ期マネジメント系基礎講座、第Ⅱ期ストラテジ系基礎講座については、次年度行われるITストラテジスト試験を参考にして見直し、また、問題を増やすなどして充実を図る。

第Ⅲ期プロジェクトマネジメント実践講座は今後も各所で開催する。

第Ⅳ期ITストラテジスト講座は親しみやすいケーススタディをさらに開発して充実を図り、学習のしやすさを目指す。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

I期～IV期を通して全日程を受講した7名に「終了証」を発行し、それを証明した。

②カリキュラムの内容

本事業では、実態調査を踏まえ、「ITストラテジストとしての再チャレンジを実現する学習プログラム」に求められる要件を、学習方法・手段、学習体系・内容、学習規模などの各面から検討した。

学習方法・手段では、対象が社会人であり長期的集合教育が難しいことから、インターネット環境で学習が可能であるeラーニングシステムやSNS(Social Networking Service)を活用する事にして、節目では集合教育によりモチベーションの維持・向上を図ることにした。

また、学習体系・内容では、ITストラテジストを目指すためにストラテジ系、マネジメント系の学び直しを中心に据えた。

以上を考慮して、第Ⅰ期マネジメント系基礎講座(15時間)、第Ⅱ期ストラテジ系基礎講座(15時間)、第Ⅲ期プロジェクトマネジメント実践講座(48時間)、第Ⅳ期ITストラテジスト講座(42時間)の4つの期からなる計120時間の研修プログラムを開発した。

また、コア教材として、第Ⅰ期、第Ⅱ期において使用する各100問のCBT(Computer Based Training)学習システム、及び、第Ⅳ期で使用する二つのケーススタディを新規に開発した(第Ⅲ期で使用する教材は総務省が開発したPBL[Project Based Learning]演習教材を、第Ⅳ期で使用する教材の一部は文部科学省事業の成果物を使用することにした)。

③講座の実施

実証講座は、第Ⅰ・Ⅱ期は11月20日～12月4日の期間に随時CBT学習システムで学習する形で各62名が受講した。第Ⅲ期は12月5日、6日、19日、20日に集合学習、12月5日～26日の期間にCBT学習システムで予習と復習を行う形で14名が受講した。

第Ⅳ期は1月22日、29日に集合学習、1月22日～2月4日の期間にCBT学習システムで予習・考察を行う形で14名が受講した。

実証講座の評価はアンケート結果を主体として期ごとに行った。その結果、第Ⅰ・Ⅱ期のマネジメント系・ストラテジ系基礎講座では教材の有効性、CBT学習システムによるeラーニングの有用性を確認できた。

また、第Ⅲ期のプロジェクトマネジメント実践講座は極めて好評で、PBL演習の有効性を確認できた。第Ⅳ期のITストラテジスト講座では概ね好評でかつ役立つことは確かめられたが、やや難しい内容に戸惑いも見られた。

④支援対象者(受講者)の状況

CBT学習システム及びSNSのログを見ると、各期の受講者とも期待以上の時間をかけて学習しており、取り組みは真剣だった。

また、各期の受講者による講座内容の評価では、第Ⅰ期、第Ⅱ期で6割近く、第Ⅲ期で9割、第Ⅳ期で7割近くの受講者が「役立つ」と答えており、受講者も効果を実感しているようである。

第Ⅰ期、第Ⅱ期の受講者では「インターネット環境があればいつでもどこでもできるので良かった」「CBT学習システムの見やすさや操作性にもう少し工夫が必要」などの意見が多かった。

第Ⅲ期の受講者では「視野が広がり、ためになった」「実際の業務に応用できる場所もあった」「支援してもらいながらプロジェクトマネージャができそう」など、非常に好評だった。

第Ⅳ期の受講者では「全体的に難しかったが、グループ学習で他の人の意見も聞けて、大変良かった」「事例を使用しての講習とグループ学習など分かり易くまた実践を経験出来たのでよかった」「ストラテジストという観点から見て有意義な講習を受けることができた」など、難しかったが有意義だったとの意見が多かった。